

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント

令和8年7月

文部科学省・国立教育政策研究所

1 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要



調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や
学習状況を把握・分析し、
教育施策の成果と課題を検証し、
その改善を図る

学校における児童生徒への
学習指導の充実や
学習状況の改善等に
役立てる



そのような取組を通じて、
教育に関する継続的な
検証改善サイクルを
確立する



調査概要

調査実施日	令和8年4月20日(月)～5月29日(金)
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、 英語（中学校のみ） 〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査 ※令和5年度以来の実施
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（4技能（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと））の 全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

2 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表スケジュール

7月16日（木）	結果公表①（正答率・IRTバンド分布などの全国平均） 学校向け帳票、個人票の提供
7月27日（月）	教育委員会向け帳票の提供
8月3日（月）	結果公表②（全国データに基づく分析結果）
9月以降（秋頃目途）	結果公表③（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果）

3 CBT調査の実施状況（中学校英語）

（１）学校単位の実施状況

	中学校英語を実施した学校数		中学校英語を実施しなかった学校数（※）			計
	調査実施日に調査を実施し、完了した学校数	後日実施を行い、完了した学校数	ネットワーク・端末の理由	準備面の理由	その他	
英語「聞くこと・読むこと・書くこと」	9,349校 (98.0%)	156校 (1.6%)	0校 (0%)	1校 (0.01%)	29校 (0.3%)	9,535校
英語「話すこと」	9,461校 (99.5%)		0校 (0%)	1校 (0.01%)	42校 (0.4%)	9,504校

※ 実施しなかった理由

- ◆ 準備面の理由：MEXCBTの登録申請が遅れた
- ◆ その他：対象生徒の体調不良等

（２）生徒単位の実施状況

	調査実施日に調査を実施し、完了した生徒数	後日実施を行い、完了した生徒数	計 (調査完了生徒総数)
英語「聞くこと・読むこと・書くこと」	861,464人	15,065人	876,529人
英語「話すこと」			863,794人(※)
(参考) 中学校国語	864,717人	15,500人	880,217人
(参考) 中学校数学	865,360人	15,458人	880,818人

※ 英語「話すこと」は、当日実施校(46,645人)と期間内実施校(817,149人)の実施人数の総数。

（３）配慮版プログラムの使用状況

	拡大文字問題プログラム	点字問題冊子	代筆解答プログラム	時間延長プログラム	ルビ振り問題プログラム	スクリプト表示プログラム
英語「聞くこと」	644人	23人		177人	11,651人	
英語「読むこと・書くこと」	725人	23人		119人	12,441人	
英語「話すこと」	294人	21人	16人		9,331人	96人

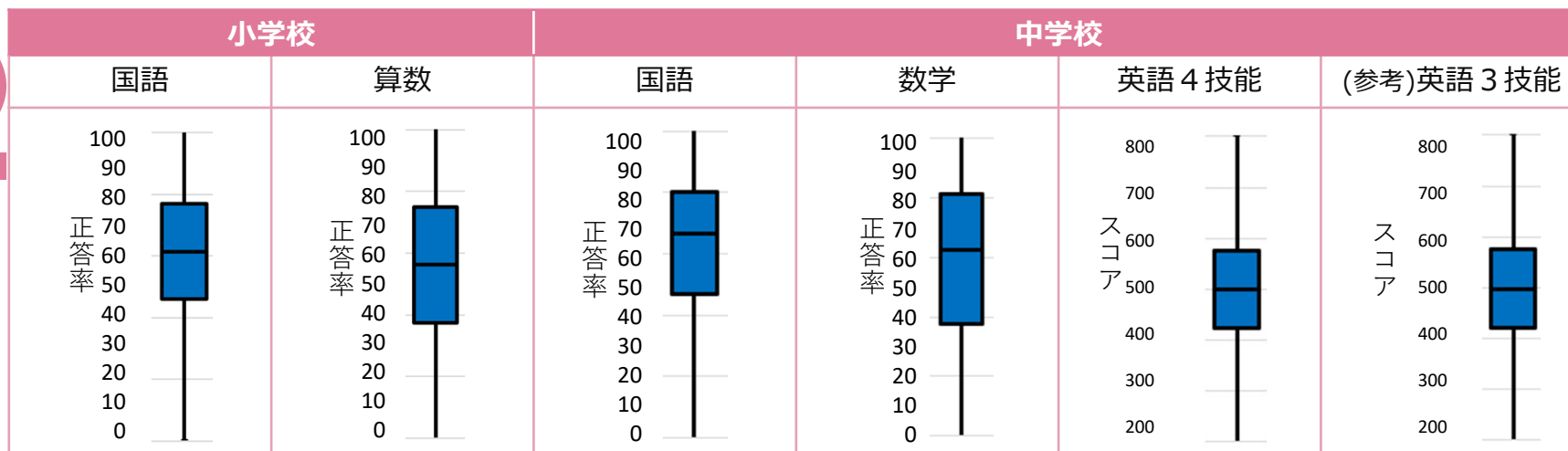
※ 中学校英語は、IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校（46,645人分）のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」（876,529人分）の3技能を統合したIRTスコアを返却。

全国（国公私）の
平均正答数（率）・
平均IRTスコア

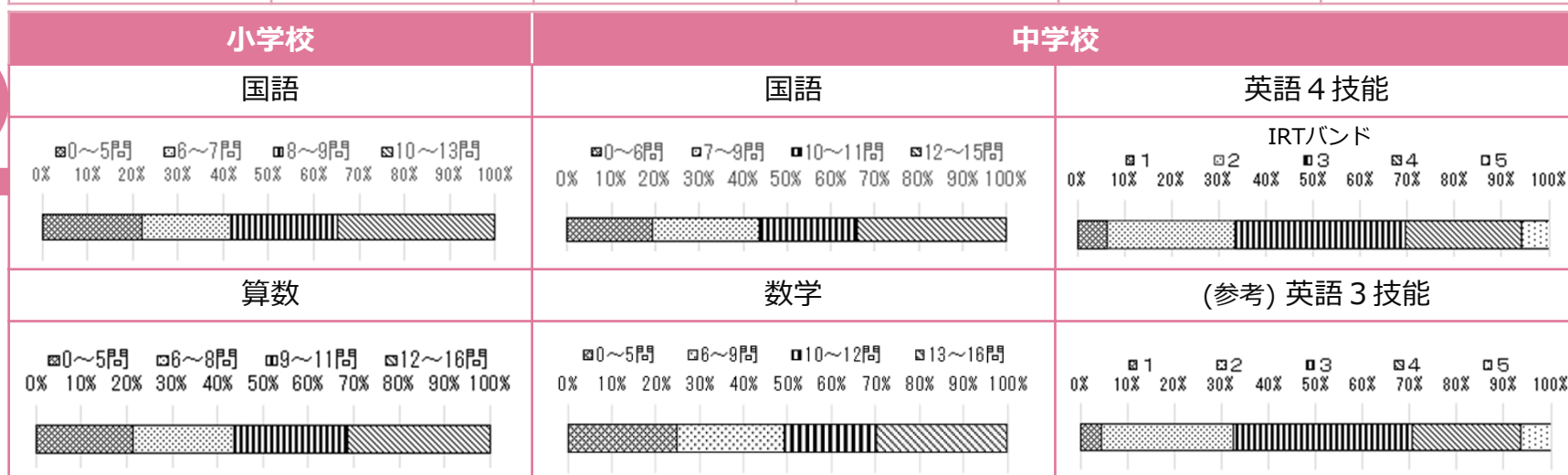
小学校		中学校			
国語	算数	国語	数学	英語 4 技能	(参考)英語 3 技能
7.9/13 問 (61.1%)	9.1/16 問 (56.6%)	9.6/15 問 (64.2%)	9.2/16 問 (57.4%)	499	502

※ 各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要。

全国の正答率・
IRTスコアの分布



正答数・IRTバンド
ごとの層分布



※ 本調査におけるIRTバンド（中学校英語）は、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるように設定したもののだが、実際の各生徒のスコア状況により各バンドの割合は変動する。

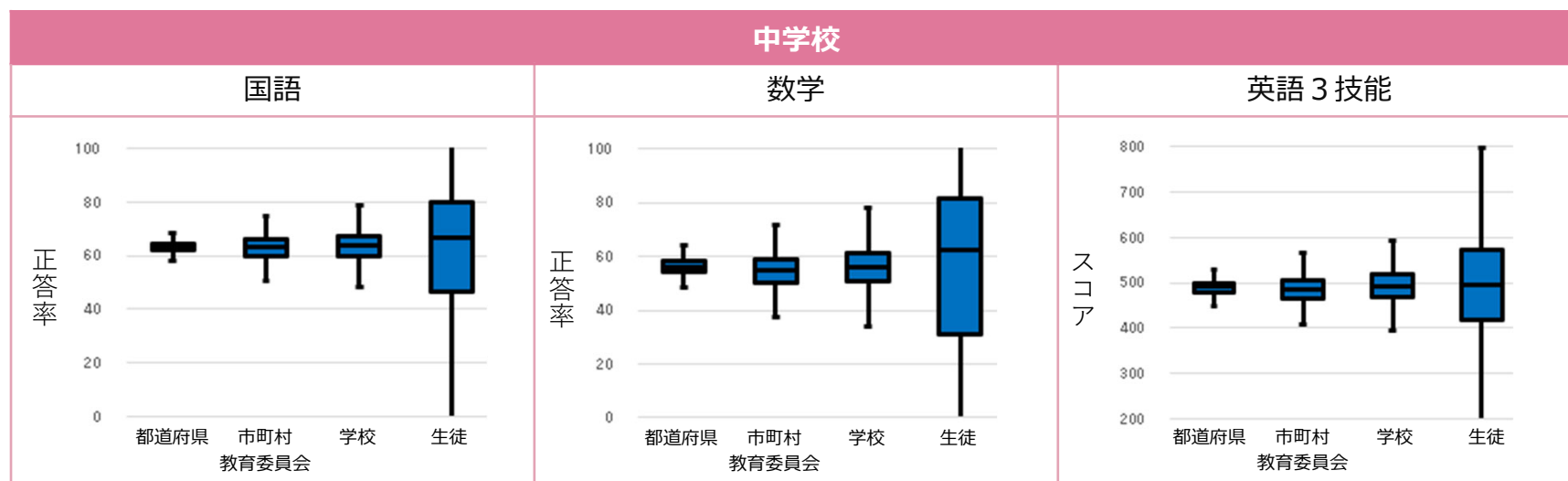
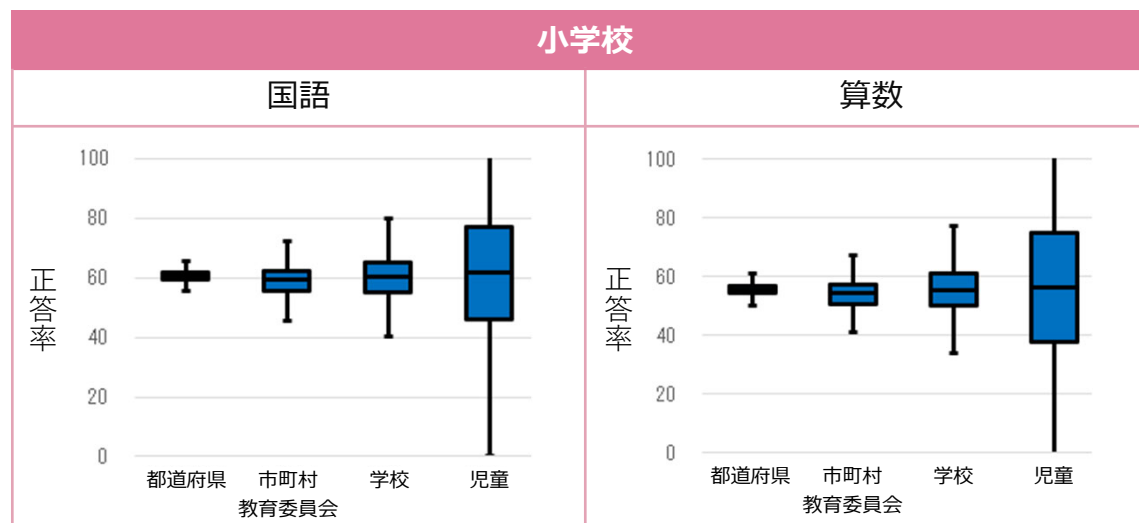
中学校英語 IRTバンド	1	2	3	4	5
4技能スコア換算	~341	342~448	449~556	557~663	664~
3技能スコア換算	~329	330~443	444~558	559~673	674~

様々な集計単位で見る
正答率・IRTスコアの
ばらつき

- ・各集計単位の平均正答率・スコアのばらつきは過年度と比べて大きな変化は見られない。
- ・都道府県別の平均正答率・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっている。

※都道府県・指定都市別
データに基づく分析結果
は、令和8年9月以降に
公表予定。

※英語「話すこと」は当日
実施校の結果を全国値と
しているため、英語の集
計単位毎の結果は3技能
で表示。



箱ひげ図



- 第3四分位数から、第1四分位数～第3四分位数の1.5倍の長さの中での最大値
- 第3四分位数（75パーセンタイル）
- 中央値（第2四分位数（50パーセンタイル））
- 第1四分位数（25パーセンタイル）
- 第1四分位数から、第1四分位数～第3四分位数の1.5倍の長さの中での最小値

パーセンタイル

計測値の統計的分布の上で、
小さい方から数えて何%目の値は、
どれくらいかという見方をする統計
的表示法

5 質問調査結果（児童生徒、学校）【速報】



学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

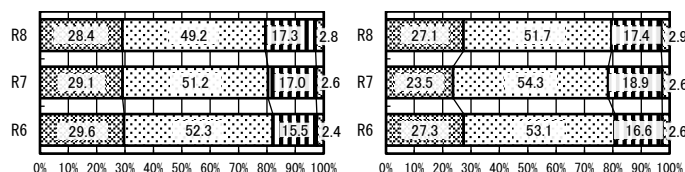
- ◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考えている。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

小学校

中学校



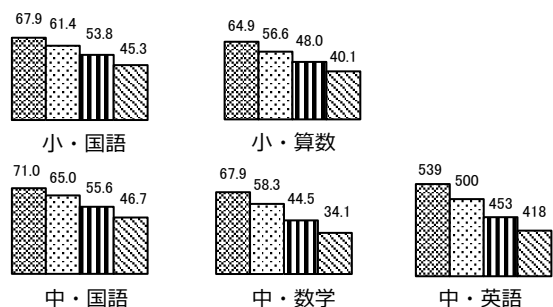
- ◆ 「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考える児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



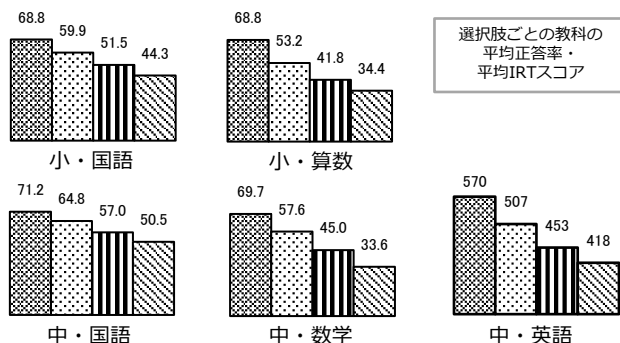
※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

各教科への興味・関心、理解度

- ◆ 「**授業の内容がよく分かる**」と回答した児童生徒ほど**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

授業の内容がよく分かる

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない



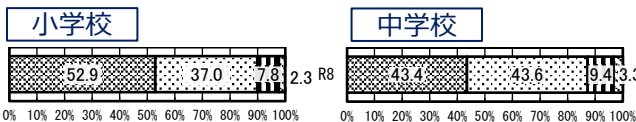
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

ICT機器の活用

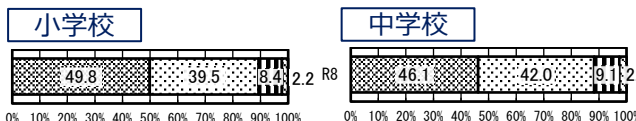
- ◆ 約90%の児童生徒が、ICT機器を活用することで「**楽しみながら学習を進めることができる**」「**友達と協力しながら学習を進めることができる**」と考えている。

そう思う
 どちらかといえば、そう思う
 どちらかといえば、そう思わない
 そう思わない

楽しみながら学習を進めることができる



友達と協力しながら学習を進めることができる



挑戦心や好奇心

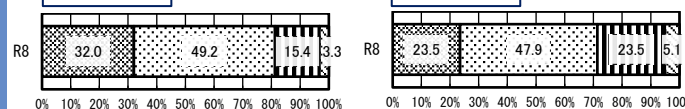
- ◆ 約70%～90%の児童生徒が、**挑戦心や好奇心**に関する質問に肯定的に回答している。また、そのような児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

課題が難しくなると、さらに努力する

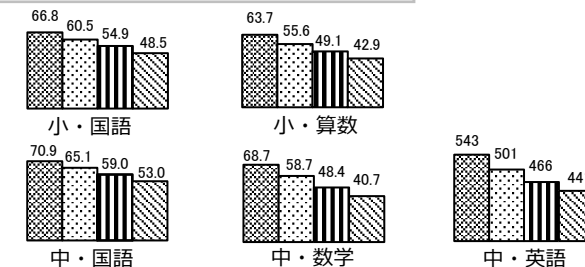
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

小学校

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

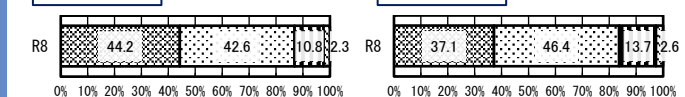


新しいことを学ぶのは好きだ

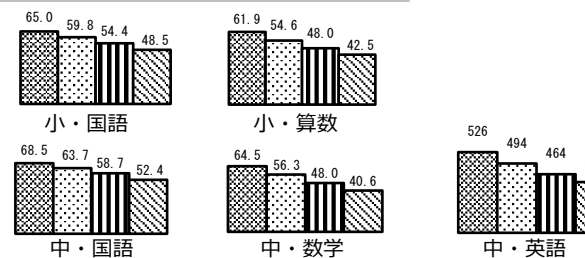
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

小学校

中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



※中学校英語はCBTで実施し、英語4技能のIRTスコアにより結果を表示している。